

コニカミノルタグループ 2010年(平成22年)3月期決算説明会 主な質問と回答

日時: 2010年5月13日(木)18:30~19:30
場所: 大手町サンケイプラザ3階(東京都千代田区)

<ご留意事項>

この資料は、決算説明会にご出席になれなかった方々の便宜のため、参考として掲載しています。説明会でお話したこと全てをそのまま書き起こしたのではなく、当社の判断で簡潔にまとめたものであることをご了承ください。

また、この資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があることをご了承ください。

■ 業績全般について

Q: 2010年度の営業利益予想が500億円となっています。これは2009年度に対して円高に想定した為替の影響や、研究開発費、減価償却費などの費用負担増を考慮したものと推察しますが、社内に向けてはどのようなメッセージを発信されているのでしょうか。

A: 今期の営業利益予想500億円は最低限達成しなければならない水準と認識しています。欧州の経済不安やユーロ安など、経済情勢は依然、予断を許さぬ環境が続いていますが、社内に対しても、2010年度は成長軌道への転換の年と位置付け、経営の舵取りを切り、より高い目標の達成を目指しています。具体的な社内計画値については開示出来ませんが、08年度の水準(563億円)を、ひとつの指針としています。

Q: 2010年度の営業利益予想では、本社費用で約60億円の費用増を見込まれていますが、その内容を教えてください。

A: 本社費用増で一番大きなものは、有機ELや有機薄膜太陽電池といった、新規事業の確立に向けた開発費用などです。また2009年度に費用を抑制していた広告宣伝費なども、一部費用増を見込んでいます。新規事業の確立に向けた費用は、事業の早期確立に向け、必要不可欠な投資ですが、その他の費用に関しては、内容を良く精査した上で実行したいと考えています。

Q: 2010年度は1ヶ月しか経過していませんが、主要事業の足元の状況について教えてください。

A: 情報機器事業では、欧州の経済不安やユーロ安といった懸念事項はありますが、新製品を中心に足元の販売状況は好調を維持しています。また今春発売予定のモノクロ新製品についても、顧客からの評判は高く、手応えを感じています。オプト事業では、TAC(液晶偏光板保護フィルム)で2009年度下半期は第3四半期、第4四半期ともに、売上、利益がフラットとなり、物足りない結果に終わったと評価しており、今期は反撃に転じたいと考えています。ガラス製ハードディスク基板においても、能力増強を図り、市場以上の成長を果たしたいと考えています。

■ 情報機器事業関連

Q: 第4四半期の情報機器事業の営業利益は、直前期と比較して、売上以上に大幅な増益を達成しています。この要因について教えてください。

A: 第4四半期は、収益性の高いカラーMFP新製品が直前期比+28%と大幅伸長した事による、販売物量増および製品MIXの改善が増益の一番の要因となっています。また期末販売は、特に欧州で好調でしたが、想定を上回る販売により、現地の製品在庫水準が下がり、利益が出やすい状態になった事も一要因です。

Q: 2010年度のMFP販売台数計画は、前年比で+10%(カラー:+13% モノクロ:+9%)となっていますが、その際の市場想定はどの程度の伸長を見込んでいるのでしょうか。

A: MFP市場全体では+3%(カラー:+7% モノクロ:+1%)の想定をしています。当社は2009年度より展開しているカラーMFP新製品に加え、モノクロMFPも、機能を充実した新製品を展開する事により、市場以上の成長を達成したいと考えています。

Q: プロダクションプリント事業の2010年度売上高が、前年比約3割増と大幅な成長となっています。施策としては商品ラインアップ拡充以外に、マーケティング機能強化とありますが、より詳しく教えてください。

A: プロダクションプリント市場は、企業内集中印刷やビジネスコンビニ向けが現時点では主体となっていますが、将来的には商業印刷領域が大幅に成長する可能性を秘めていると考えています。この領域で事業を拡大するには、デジタル印刷の持つメリットを顧客に訴求していく必要があります。そのためには機器を販売するだけでなく、コンテンツの提案や物流など、全てをパッケージ化してサービスを提供する事が重要と考えています。当社グループ内にはグラフィック事業部門があり、商業印刷顧客向けに商品、サービスを提供しています。今後はグラフィック事業部門のリソースを有効活用し、同領域における事業拡大に努めたいと考えています。

■ オプト事業関連

Q: 2010年度の業績予想は、前年比で4割以上増益の計画となっています。事業別にはどの様に寄与するのでしょうか。

A: 利益成長の一番の牽引役は、ガラス製ハードディスク基板です。同事業は昨年度中盤より市況が本格回復しており、旺盛な需要に対し供給が追いつかない状況が継続しています。2010年度下半期以降はマレーシア工場での大幅な能力増強を実施予定で、前年比7割増の販売数量拡大を見込んでいます。製品の高記録密度化により、製品MIXも改善傾向にあり、売上規模も数量同等の拡大を見込んでいます。その他のTACフィルム、光ピックアップレンズ、画像入出力事業も全て増益の見通しです。

Q: TACフィルムは、競争激化によるVA-TACのシェア低下が懸念されますが、2010年度の計画について教えてください。

A: 2010年度は当社の得意とする、薄膜、広幅品を中心に事業拡大を目指します。その一方でVA-TACについても、新製品の投入により、競争力の一層の強化を目指したいと考えています。

以上